

新宮山彦ぐるーぶ第2020回12

春季連休中の持経宿への来宿者の対応と作業など

◇実施日：2019年04月30日(火) ～ 05月04日(土)

◇参加者：30日 豊嶋 寛、樋口義也、前田 正、久保義満、

村吉光夫。

1日～3日 村吉光夫。

04日 村吉光夫、豊嶋 寛。

参加者5名、延10名。

4月30日(火)

曇り後雨

(来宿者12名)

先に持経宿に入っていた豊島さん達と入れ替わりで持経宿に入る。果たして豊島さん達が、下山する前に小屋に着けるかどうか気になるものの、小屋入りの日は早朝に就寝し午前中に起きて急いで積み込みと出発。

池郷林道のゲートで下山してきた豊島さん達と出会えた。お陰で宿泊者が例年より多い事など状況を教えて頂けた。

小屋に着いて、豊島さんが後を託した聖護院の行者さんに挨拶。豊島さん達が残して行かれたサンマを受け取る。焼いて食べるように勧めたが、遠慮されたので若いグループに声を掛けたら数人でワイワイ言いながら上手に焼いて、他の人にも声を掛けて皆で『大峯のサンマ』を楽しんでくれた。12人宿泊、20時消灯。

5月01日(水)

雨

(来宿者19人)

元号が変わった瞬間に起きていた人は、此処にはいない。4時に点灯、寝袋から体を出しながら「年号が変わったんだなあア」。

朝の小屋は、ストーブに火を入れなくても寒くはない。

かなりしつかりした雨になり、皆さん濡れて小屋に到着。早めに到着した若者に声を掛けて、みんなで小屋の前にブルーシートを張る。小屋の中にも畑から抜いてきたビニールハウス用のパイ

プを使って物干し場所を拡大。この作業も来宿者から「物が有ったら自分たちでやります」と言って下さり、全部お任せでやってもらう。この方々は個別の単独者4人で、宿泊協力金も3,000円ずつ出してくれた人達だ。

混み合ってきたが、皆さんが協力的で上手に詰めて下さり、若干の余裕が残った。

一人の男性から「3時に起きたいのだが他の方の迷惑になるだろうか」と声を掛けられる。今日の宿泊者はなかなかの強者揃いなので、他の方も動きが早いかもしれない。皆さんに希望を聞いてみると、3時に起きたい人が何人も挙手をされるので、明日は3時に点灯することに決定。合わせて消灯時間も19時45分に決めて、スイッチ下で寝る方に消灯点灯をお願いする。

19人宿泊。

5月02日(木)

晴

(来宿者10名)

私がお堂で寒くて目が覚めた。3時に小屋に入ると暖かい。

お堂に戻って温かいスープを飲んで、もう一度寝袋に入ったら爆睡、6時に起きたら残っていたのは一人だけだった。

水汲みに行ったついでに、水場横に倒木などを整理してあった薪を持ち帰る。

今日は私の中日(なかび)で入浴日。水汲みと掃除を済ませて10時頃に下山。きんりの湯でゆっくりと湯に浸かり、帰りがけに事務所ネットで天気予報のプリントをお願いし頂いて、持経宿に戻り小屋内に貼る。

今朝、行仙を出発したという夫婦が宿泊。時間があるからと薪割り、薪切りをして下さる。10人宿泊。消灯20時。

5月03日(金)

晴れ後夕方一時雷雨

(来宿者15名)

4時点灯。今日の水汲みは、平治沢に行ってみる。若干荒れている所はあるが、走行に問題無し。

午前中に女性の二人連れが、池原から上がってきた。昨年体調を崩して持経宿でリタイアした二人だ。『普通の若い女性』としか見えない二人だが、3年かけても本宮まで歩き通したいと頑張り、本宮から「最終日はひたすら呼吸と山を会わせることを考えて」「無心になると意外と楽に歩く事ができるようになり・・」とメールが送られてきました。満願成就おめでとうございます。疲れが溜まってきた感があるので、午後30分の昼寝をすることにしました。

一人だけ宿泊を決めて小屋にいた人にそう伝えると「大体判ったので誰か来たら、概ねの説明をしておきます」と言って頂く。玉岡さんが言っていた「小屋に来た人はみんなが小屋番だ」は正にこれだなあと思う。

持経宿を通過した方が、宿泊予定は行仙宿と言いながら志納金として千円渡して下さる。(記録が不明瞭で9月2日かももしれない) 豊島さんが再び小屋番に上がってきて下さいました。これで百人力、楽が出るだろう。

夕方から雷雨、テン泊しにくい状況になり、遅い時間に宿泊者がやって来そうな気配を感じる。豊島さんが宿泊者に場所を詰めるように話し、空き場所を確保して下さい。今日は宿泊協力を金5,000円出して下さる方がいたので感謝。

15人宿泊。20時消灯。

5月04日(土) 晴

4時点灯。今日は私の最終日、豊島さんが残って下さるので大いに気が楽だ。ロープを張って豊島さんと一緒に毛布干し。これも結局は、二回転の毛布干しの殆んどを豊島さんにやってもらったことになった。

私は平治宿へ非常食の交換に出かけた。なんと、どなたかが非常食を補充して下さいっており、救急箱が箱も中身も新しくなっていた。

壁の時計が電池切れ。予備の電池を持っておらず交換できず。帰りに痩せ尾根の作業現場でワイヤークリップを二ヶ所取り付け。

出がけに豊島さんが「手伝えることはないか」と言って下さっていたが、今日は私の方が落ち着いて作業できる時間が取れないのでお願いできなかった。

14時頃に持経宿に戻って遅い昼食。バタバタと私物を片付けて16時頃に小屋を出発し自宅に向かう。

最後は豊島さんに「あれお願いします」「これもお願いしときます」ばかり言っていたような気がする。

(記：村吉)